

第6学年 社会科学学習指導案

令和7年11月14日(金)

場所 6年1組 教室

1 単元名 近代国家を目指して

2 目標

- ・日本の国力が充実し国際的地位が向上したことについて理解するとともに、絵画・写真資料や文化財、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。
- ・条約改正に向けた取り組みの特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- ・条約改正に向けた取り組みについて、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに多角的な思考や理解を通して、日本の歴史や伝統を大切に国を愛する心情を養う。

3 評価規準

- 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、絵画・写真資料や文化財、地図帳や地球儀、統計や年表などの資料で調べ、条約改正、大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、科学の発展などを理解している。(知識・技能)
- 調べたことを年表などにまとめ、日本の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解している。(知識・技能)
- 世の中の様子などに着目して、問いを見いだし、条約改正、大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、科学の発展などについて考え、表現している。(思考力・判断力・表現力)
- 条約改正と大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、科学の発展などを関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。(思考力・判断力・表現力)
- 条約改正に向けた取り組みについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

4 単元について

本単元は、学習指導要領第6学年の内容(2)歴史と人々の生活(コ)に基づいて設定している。大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを手掛かりに、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解することをねらいとしている。本単元では、これまでに生じた諸外国との国力の差をどのようにして埋め、国際的地位を向上させたかを、どのような人物が活躍したかなどの問いを設けて考えさせていきたい。

5 児童の実態

本学級の児童は歴史に関して興味、関心が強く、自主学習で授業の復習をまとめたり、学習塾などで予習をしたりしている者も多い。事前のアンケート調査では歴史が好きと答える児童は23名で全体の75%であった。歴史に強い興味、関心がある児童がいる一方、歴史にあまり関心がない児童も7名おり、児童間で差が生まれている。そこで、本単元では、知識の習得にとどまらず、主体的に学習に取り組み、歴史から学んだことを自分の生き方や考え方につなげていけるような単元づくりをしていきたい。

6 研究の視点（子供の思考を促す教師のはたらきかけ）

【A 主体的に学習に取り組める学習課題の設定】

- ・学習課題を解決するための思考ツールを適切に活用し、当時の出来事を自分事として捉えさせる。
- ・単元の最後に「私の偉人ベスト3」を決め、デジタル新聞にまとめることを目標とし学習を進めていく。

【B 学びを振り返り生かす掲示や環境デザイン】

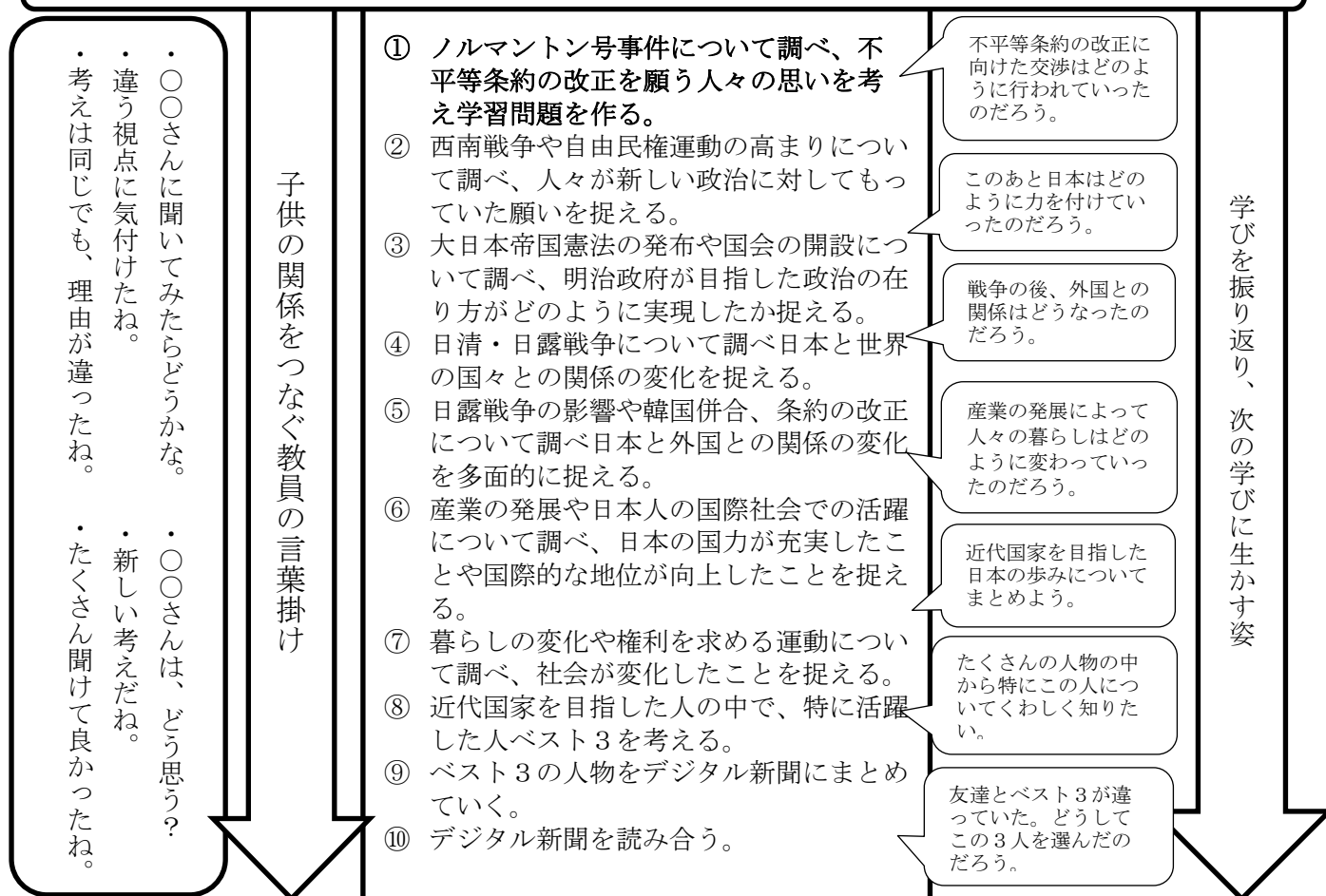
- ・毎時間の授業の最後に「今日の偉人」を設け、近代国家を目指して活動した人物をまとめる。学習した偉人を学級に掲示しいつでも振り返ることができるようにする。

【D 協働的に学び思考を深める場の設定】

- ・グループごとに机を寄せ風刺画から分かったことや気付いたことを伝え合う時間を設け、様々な視点から資料を見たり新しい考えに気付いたりしながらさらに思考が深まるような場の工夫を行う。

7 単元構想（10 時間扱い 本時 1 / 10）

【単元を貫く学習問題】 日本は、近代国家を目指して、どのような人々が活躍したのだろうか。



【単元を通して 目指す子供の姿】

不平等条約の改正や近代国家づくりに尽力した人物について調べたり、考えたりする学習を通して、自分たちの生活や社会との関連に気づき、生かそうとする姿

8 本単元における、主体的に考え、共に学び合う子供の姿

本単元における「主体的に考え、共に学び合う子供の姿」とは、近代国家を目指して尽力した人物や主な事象について理解を深め、自分たちの生活や社会との関連に気づき、思ったことや考えたことを伝え合おうとする姿であると考えられる。そのために、過去の出来事を自分事として考え、自分たちの生活や社会と関連していることを意識させたり、歴史から学んだことをどのように生かしていくかを考えさせたりする機会を設けたい。

9 本時の目標（1／10）

- ・ノルマントン号事件について調べ、不平等条約の改正を願う人々の思いを考え、表現する。

10 学習過程

	○学習活動・内容 T：教師の発問 C：児童の反応	・指導上の留意点 ◇評価規準（評価方法） ★研究の視点
導入	○前時の学習内容を振り返る。 T：江戸時代の終わりに結ばれた条約はどのようなものだったか。 C：日米修好通商条約 日本に不利な不平等条約だった。	・不平等条約については P173 などでも振り返り、どのような点が不平等だったか確認させる。
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">めあて 条約の改正を求める声はどのような出来事がきっかけで強まったか考えよう。</div> ○ノルマントン号の風刺画を見て、話し合う。 T：資料を見て気付いたことを書きましょう。 C：船が沈没しかかっている。 C：ボートに乗っている人が救助しようとしていない。 ○ノルマントン号事件について調べ国民が不平等条約についてどのように考えたかクラゲチャートにまとめる。 T：出来事を整理して国民の反応を考えましょう。 C：不平等条約のせいで不当な裁判結果がでたのだと思う。 ○考えを全体で共有する。 ○条約改正に向けてどうしたらよいか国民の立場に立って考える。 C：不平等条約の改正のために産業を発展させよう。 C：軍事力を上げよう。 C：西洋の文化を取り入れて真似をしよう。 ○学習問題をつくる	・友達の発表を聞いて新たな気付きがあった場合はロイロノートに追記させる。 ・クラゲチャートを使って「時」、「場所」、「被害の状況」、「裁判の結果」、「イギリス人の被害状況」から「国民の反応」を考えさせ、緊迫した状況や大勢の命に関わる事件であったことを捉えさせる。 ★クラゲチャートを使って出来事を整理させ国民の立場で考えさせる。【A主体的に取り組める学習課題の設定】 ・様々な考えがあることに気付かせ、ロイロノートに追記させる。 ・当時の人たちの立場で考えさせ自分事として捉えさせる。 ・ロイロノートに書かせて全体で共有させさまざまな考えがあることに気付かせる。 ★グループごとに机を寄せ、互いの意見を伝え合わせ様々な考えがあることに気付かせる。【D協働的に学び思考を深める場の設定】
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">近代国家を目指して、どのような人々が活躍したのでしょうか。</div>	
まとめ	○学習を振り返り、今後の予想をする C：不平等条約で多くの日本人の命が失われたことが驚いた。この後、不平等条約の改正にむけて交渉が行われたのではないかな。 C：不平等条約の改正に向けて国家の体制を整えたのではないかな。	・本時の学習で学んだことのほかに、今後学んでいきたいことにも目を向けさせる。 ・年表などを活用し学習の見通しを立てさせる。